

平成28年度 ちばっ子「学力向上」総合プラン《評価表》

アクション1 興味ワクワク「読書・体験学習」チャレンジプラン (「読書活動や体験活動を通じた学習意欲の向上」の視点)

◎子どもたちの学習意欲を高めるための取組が充実しているか

事業名
11 確かな学びの早道「読書」事業の推進
12 優良・優秀学校図書館認定事業の実施
13 「小・中・高連携の特別授業」による体験学習の促進
14 特別非常勤講師配置事業の推進
15 「お兄さん、お姉さんと学ぼう」事業の推進
16 学びの「総合力・体験力」コンテストの開催

評価 (a : 十分満足できる b : 概ね満足できる c : 不十分である)

評価の観点		学力向上PT会議による評価	
事業番号-事業担当者自己評価		評価コメント	評価
ア	学校図書館が様々な学習活動で活用され、学力向上や読書活動推進の取組の充実につながっているか <p style="text-align: center;"><u>11-b 12-b</u></p>	優良・優秀学校図書館認定数が着実に増加し、子どもたちの読書活動の推進が図られている。学習センターとしての学校図書館の活用については一層の充実が期待される。	b
イ	子どもたちの体験学習の機会の充実が図られているか。 <p style="text-align: center;"><u>13-b 14-a 15-a 16-a</u></p>	各事業を活用した学校等に対する報告書やアンケート結果には、大変良好な回答が寄せられ、実施校では、子どもたちにとって貴重な学びの機会になっているといえる。	a
ウ	学校等で体験学習の重要性についての理解が図られているか <p style="text-align: center;"><u>13-b 14-a 16-a</u></p>	特別非常勤講師の活用希望や学びの「総合力・体験力」コンテストの応募状況は大変良好である。	a
エ	学校図書館の活用や体験学習により、子どもたちの学習意欲が向上しているか <p style="text-align: center;"><u>11-b 12-b 13-b 14-a 15-a 16-a</u></p>	各事業の実施内容やアンケートの回答内容等から、子どもたちの学習意欲の高まりがうかがえる。	b

○「アクション1」の関係者評価 (学力向上PT会議コメント)
 読書活動や体験活動の推進が図られ、各事業における教育活動が充実しつつある。

○「アクション1」の総括評価（学力向上推進会議コメント）

各事業ごとの具体的な取組には若干の課題がみられるものの、観点の評価については妥当であるといえる。

◇「アクション1」の各観点に対する学力向上推進会議委員の意見

観点ア（11・12） 「b」評価は妥当である

- ・施設の充実はもちろんのこと、学校図書館の本質的な在り方を再度検討すべきと考える。優良・優秀図書館の認定は進んでいるが、子どもたちにとって魅力ある図書館（読みたい本、新しい本がある、必要なときに使える）になっているのだろうか。
- ・情報機器（パソコン、タブレット）の普及により、インターネット検索を用いて目的とする情報を収集することが当たり前になりつつある。そのようなときだからこそ、本を学習に活用する意義や「本でなければならない」場面の事例化や学習計画での明確な位置付け、活用法の発信等が必要ではないか。

観点イ（13・14・15・16） 「a」評価は妥当である

- ・「お兄さん、お姉さんと学ぼう」事業については、地域の小学校と高等学校が連携し、貴重な体験学習の場となっている。小学生にとっては関心・意欲が高まる内容であり、高校生にとってもキャリア教育の視点からよい学びの場となっており、双方にとって充実した機会となっているといえる。
- ・「小中高連携の特別授業」については、登録する教員が固定化しつつある。若手人材を活用し、活性化を図ることを考えるべきである。

観点ウ（13・14・16） 「a」評価は妥当である

- ・体験学習の重要性をとらえ、「特別非常勤講師」を活用し、合唱や吹奏楽の指導、和太鼓や琴の体験等、より専門性の高い指導や体験の場を提供しようとする学校が増えているといえる。

観点エ（11・12・13・14・15・16） 「b」評価は妥当である

- ・評価の観点「子どもたちの学習意欲が向上しているか」とあるが、「学習意欲が高まった結果としての子どもたちの姿や行動」を明確にするとよい。
- ・学びの「総合力・体験力」コンテストでは、子どもたちの学習意欲が向上した結果として、作品や応募数の増加等に具体的にあらわれているといえる。
- ・優良・優秀図書館の認定や活用がさらに進むことで、観点評価が向上することに期待したい。

アクション2 「子どもたちの夢・チャレンジ」サポートプラン
 (「子どもたちの主体的な学びを支える取組の充実」の視点)

◎子どもたちの学習を充実させるための取組の成果が上がっているか

事業名
21 千葉県学習サポーター派遣事業の充実
22 「家庭学習のすすめ」サイトの活用促進
23 「ちばっ子チャレンジ100」及び「学びの突破口ガイド」の活用 (小学校)
24 「ちばのやる気」学習ガイドの活用 (中学校)
25 「SSH」などの活用による理数教育の充実
26 「中高生の科学研究実践活動」の推進
27 科学の甲子園・科学の甲子園ジュニア大会の開催
28 「SGH」の活用によるグローバル教育の充実
29 子どもたちの学びを支える英語教育強化推進事業の実施
210 進学指導重点校における教育活動の充実と普及

評価 (a : 十分満足できる b : 概ね満足できる c : 不十分である)

評価の観点		学力向上PT会議による評価	
事業番号-事業担当者自己評価		評価コメント	評価
ア	子どもたちの学習を充実させるための調査・研究・指導がなされているか <u>21-a 25-a 26-a 27-a</u> <u>28-b 29-b 210-b</u>	各事業における当該校の調査・研究・指導は進みつつある。その成果を生かし、子どもたちの学習意欲の高まりが一層波及していくことを期待したい。	a
イ	子どもたちの学習を充実させるための調査・研究に関する啓発がなされているか <u>26-a 27-a</u>	科学の甲子園 (含むジュニア) の参加校が増えるなど、理数教育に関する事業の啓発がなされている。	a
ウ	子どもたちのための学習資料の活用につながる取組は充実しているか <u>22-b 23-a 24-b</u>	学力向上交流会の分科会における活用事例の紹介や活用を促すリーフレットの配付等により啓発に努めている。	b
エ	子どもたちのために作成した学習資料の活用状況はどうか <u>22-b 23-a 24-b</u>	ホームページで配信されている問題へのアクセス数は良好な状況であり、様々な学習活動において活用されている。	b

○「アクション2」の関係者評価 (学力向上PT会議コメント)

子どもたちの主体的な学びを支えるための様々な取組が充実しつつあるが、一層の周知を図っていくとよい。

- 「アクション2」の総括評価（学力向上推進会議コメント）
各観点とも若干の課題が認められるものの、全体として妥当な評価である。

◇「アクション2」の各観点に対する学力向上推進会議委員の意見

観点ア（21・25・26・27・28・29・210） 「a」評価は妥当である

- ・「SGH」に関して、グローバル教育については、小・中学校と高等学校の接続及び保護者への周知が必要であると感じる。社会教育と連携することなどで、更なる必要性の周知が図れるのではないか。
- ・英語教育強化推進事業については、生徒の英語力の向上には若干の課題を感じるが、高校の英語教育拠点校が近隣の小学校へ協力を申し出るなどの現場の動きに啓発の成果が表れ始めているといえる。
- ・進学指導重点校の授業研究活動（公開授業等）を積極的に周知することで「普及」の充実につながるのではないか。また、課題として挙げられている公募教員の交流会はぜひ実現させてほしい。

観点イ（26・27） 「a」評価は妥当である

- ・トップ層の育成という面で魅力的な事業である。特に「科学の甲子園（ジュニア）」は、大変面白い事業で、参加している学校や生徒への効果は大きいと感じる。ただし、裾野の拡大という点では、参加校や上位校が固定化しているのではないかと懸念される。より多くの学校、生徒が参加できるよう更なる啓発・周知及び工夫に努めてほしい。

観点ウ（22・23・24） 「b」評価は妥当である

- ・「家庭学習のすすめ」サイトや「ちばっ子チャレンジ100」について、ホームページへのアクセス数が8月に減少していることから、学校（教員）が中心となって（教材作成等で）利用していることが考えられる。それに加えて、児童生徒が直接アクセスしようとする（したくなる）ような工夫も必要ではないか。身のまわりには、他にも魅力的な資料や学習機会が多数存在するようになってきたことを受け、「ちばのやる気」学習ガイドも含めたこれらの事業の特色をいかに周知するかが課題と考える。

観点エ（22・23・24） 「b」評価は妥当である

- ・「家庭学習のすすめ」や「ちばのやる気」学習ガイドの活用について、アクセスの「数」とともに、「誰がどのようなときに使うのか」等の情報を把握することで、改善へのヒントを見いだすこともできるのではないか。また、効果的な活用事例の紹介などを、家庭（保護者・児童生徒）にも届くようなかたちで行うことも必要ではないか。

アクション3 子どもいきいき「授業力アップ」プラン
 (「授業力の向上による学びの深化」の視点)

◎授業力向上の取組の成果が上がっているといえるか

事業名
31 新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクトの推進と授業実践研究の実施
32 ちば「授業練磨の公開日」の実施
33 「魅力ある授業づくりの達人」認定・活用事業の推進
34 「学力向上交流会」の開催
35 「私の授業レシピ（秘訣・秘伝）」活用事業の推進

評価 (a : 十分満足できる b : 概ね満足できる c : 不十分である)

評価の観点		学力向上PT会議による評価	
事業番号-事業担当者自己評価		評価コメント	評価
ア	学力向上施策の理解が図られ、授業改善のための取組が充実したものになっているか <u>31-b 32-b 34-a</u>	学力向上交流会の内容及び「新たな学び」に関する研修会参加者の意識調査の結果から、授業力向上に対する教員の意識の高まりが感じられる。	b
イ	教師力・授業力向上をけん引する人材の育成・発掘ができているか <u>33-a</u>	「魅力ある授業づくりの達人」の活動状況では、若年層教員に対する基本的な指導から専門的な内容の伝達まで幅広く対応できる人材が認定されていることがうかがえる。	a
ウ	教師力・授業力向上のための資料提供は十分にできているか <u>31-b 35-b</u>	ホームページへの資料提供等が着実に進められている。今後は、その活用状況の把握が必要となる。	b
エ	授業改善や授業力向上を図る取組の成果が上がっているか <u>31-b 32-b 33-a 34-a</u>	学力向上交流会参加者の感想では「授業づくりの参考になった」とする回答数が多く、成果が見られる。「新たな学び」の研究指定校の教職員に対するアンケート結果から、次年度は変容を把握していくとよい。	b

○「アクション3」の関係者評価 (学力向上PT会議コメント)

各事業の内容が徐々に充実したものになりつつある。若い教員が増えている現状に加え、学習指導要領改訂の時期であることや、これからの時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育成する観点から、「授業力向上による学びの深化」の視点は、ますます重要である。

○「アクション3」の総括評価（学力向上推進会議コメント）

全体に対する評価は、概ね妥当である。新しい事業については、今後、取組の成果が上がり、それが広く県内各学校に浸透していくことが期待される。事業開始から時間が経っているものは、成果の大きい事業については、今後も内容の一層の充実を図ってほしい。一方、事業効果の向上や学習指導要領改訂を踏まえて、内容の見直し等が必要なものも散見される。

「授業力向上」の施策として有効であるのは確かであるが、教員の業務改善とのバランスをどうとるかが課題である。更に一歩進んで、これらの施策が業務改善につながるとよい。

◇「アクション3」の各観点に対する学力向上推進会議委員の意見

観点ア (31・32・34) 「b」評価は妥当である

- ・「新たな学び」事業については、取組の充実度が、学校によって差がある。また、今後の課題として、このプロジェクトの目的と意義の浸透をどう図っていくかを考えていくとよい。
- ・「授業練磨の公開日」事業については、参観率向上のために、県が具体的な方策をとることが求められる。学校によっては出張や代替の関係で参観に出づらく、中学校区内だけの交流にとどまっている所も多い。このことについて、県がどう対応するか、明確にする必要がある。
- ・「学力向上交流会」については、分科会で参加者同士の小人数グループでの協議を実施する学校があり、議論を深める上で有効であったといえる。

観点イ (33) 「a」評価は妥当である

- ・「魅力ある授業づくりの達人」事業については、小学校現場で若手教員への指導・助言、授業公開等、多方面で活用され、その力を発揮していることから、教師力・授業力向上に有用な人材の発掘ができていると考えられる。

観点ウ (31・35) 「b」評価は妥当である

- ・「新たな学び」事業については、実践フィールド校において、研修協力員が「新たな学び」に関する理論や研修プログラムの提供に大きな役割を果たしていた。今後は、実践フィールド校の研究成果を県内各学校に広く提供していくことが求められる。
- ・「授業レシピ」事業については、事業開始から6年が経ちアクセス数もあまり多くないので内容の再検証が必要である。また、学習指導要領改訂に向けたレシピの開発に取り組む必要がある。

観点エ (31・32・33・34) 「b」評価は妥当である

- ・「新たな学び」事業については、研修参加者の取組への意欲は高い。しかし、事業開始2年目でまだまだ実践を模索中であり、成果の評価としては控えめな面があるのではないか。
- ・「授業練磨の公開日」や「学力向上交流会」については、アンケート回答から参加した教員については自己の授業改善に一定の成果があったと思われる。「授業練磨の公開日」については、参加者の増加を期待する。
- ・「魅力ある授業づくりの達人」事業については、小学校では若手教員への指導・助言、研修会での授業公開など多方面で活用され、教員の授業力向上に大いに役立っている。今後は、中学校での事業推進も検討してほしい。

アクション4 「評価・改善」アクティブプラン

(「学力向上に係る取組の適切な評価・改善の推進」の視点)

◎「ちばっ子『学力向上』総合プラン」の「評価・検証システム」が有効に機能しているか

事業名
41 「全国学力・学習状況調査」のデータ及び分析ツールの活用促進
42 「学力・学習状況」検証事業の推進
43 「学力向上推進会議」の開催

評価 (a : 十分満足できる b : 概ね満足できる c : 不十分である)

評価の観点		学力向上PT会議による評価	
事業番号-事業担当者自己評価		評価コメント	評価
ア	全国学力・学習状況調査の活用に向けた取組の成果が上がっているか <u>41-b 42-b</u>	分析ツールの活用のベースはできているので、その効果的な活用事例の提供や、分析結果を教育活動の改善に生かす具体的な取組があるとよい。	b
イ	「検証協力校」において、学力向上に向けた取組が充実したものになっているか <u>42-b</u>	学力向上交流会において実践を発表した学校もあったが、検証協力校の取組の成果等をまとめ、PDCAサイクルで不断に見直していくとよい。	b
ウ	学力向上推進会議の企画・運営方法は適切であり、学力向上施策の充実につながっているか。 <u>43-a</u>	「新 ファイブ・アクション」となり、各事業の評価観点の項目を増やすなど、自己評価の在り方や評価資料の充実について見直しが図られつつある。	a

○「アクション4」の関係者評価 (学力向上PT会議コメント)

児童生徒の学力や学習状況を適切に評価・把握し、それを生かして改善していくPDCAサイクルを確立していきたい。

○「アクション4」の総括評価（学力向上推進会議コメント）

「評価・検証システム」については概ね有効であるが、それを実際に機能させ、取組の充実や成果の向上につなげることが重要である。そのために、「検証協力校」での効果的な活用事例や取組例を、広く提供していくことが求められる。

◇「アクション4」の各観点に対する学力向上推進会議委員の意見

観点ア（41・42） 「b」評価は妥当である

- ・「全国学力・学習状況調査」データについては、各校での蓄積がなされ、各校の学力の傾向も見えつつある。今後は、学力向上の取組に、それを具体的にどう活かしていくかが課題になると考える。
- ・分析ツールの利用については学校現場にかなり浸透してきている。しかし、分析結果の校内での共有や教育活動の改善への活用については、未だに「活用していない」との回答が見られ、各学校で進んできてはいるものの十分とはいえない。
- ・「学力・学習状況」検証協力校での学力向上・授業改善への活用事例を、広く各学校に示すための有効な方策について、今後検討する必要がある。

観点イ（42） 「b」評価は妥当である

- ・検証事業協議会で、検証事業の進め方や各学校の取組について情報交換できることが、「検証協力校」にとって自校の取組や進捗状況を見直すことに有効となっているといえる。
- ・「検証協力校」では、学力向上と授業改善への教員の意識は高まっている。また、校内体制の整備と具体的方策についても取組が進んでいる。今後は、各学校がPDCAサイクルを機能させ、取組の実効性を高めていくことを期待する。そのためにも、PDCAサイクルの形骸化を防ぐ必要がある。

観点ウ（43） 「a」評価は妥当である

- ・「学力向上推進会議」による評価により、評価に客観性がもたらされているといえる。ただし、委員が全ての事業を見ることは不可能なので、そこが難しいところである。
- ・「学力向上推進会議」の内容・運営方法については概ね適切である。
- ・「学力向上推進会議」の存在、目的・意義について、県内各学校に周知する必要がある。
- ・「ファイブ・アクション」の各事業そのものに、委員がコメント・評価できる部分がもう少しあってもよいのではないかと。

アクション5 「教師カトップ」アクティブプラン
 (「信頼される質の高い教員の育成」の視点)

◎教師力向上の取組の成果が上がっているといえるか

事業名
51 「千葉県教職員研修体系」に基づく研修事業の充実・推進
52 「若手教員育成推進員」活用事業の推進

評価 (a : 十分満足できる b : 概ね満足できる c : 不十分である)

評価の観点		学力向上PT会議による評価	
事業番号-事業担当者自己評価		評価コメント	評価
ア	教職員研修の改善が図られ、充実したものとなっているか 51-a	アンケートにおいて、肯定的な回答の割合が非常に高いことから、研修の充実が図られているといえる。	a
イ	教師力向上をけん引する人材の発掘がなされ、若手教員の育成を図る取組の成果が上がっているか 52-a	「若手教員育成推進員」として適した人材が、若い教員に寄り添って指導・助言にあたっている。	a
ウ	教師力向上を図る取組の成果が上がっているか 51-a 52-a	受講者アンケートの記述から、多面的な視点から研修内容・方法が構成され、教員の資質能力の向上に効果的であったといえる。	a

○「アクション5」の関係者評価 (学力向上PT会議コメント)
 教師力向上のための取組が体系づけられ、計画的な実施による効果が表れつつある。

○「アクション5」の総括評価（学力向上推進会議コメント）

全体として、妥当な評価である。

子どもたちを指導する教師力を向上させるため、また、若手教員が増えている現状から、研修の充実及び精査が一層求められる。

◇「アクション5」の各観点に対する学力向上推進会議委員の意見

観点ア (51) 「a」評価は妥当である

- ・研修に参加した教員のアンケートなどから、研修内容について肯定的にとらえている姿が見られることから、充実が図られてきているといえる。
- ・まだ、否定的な意見を回答する教員も若干いることから、演習等を取り入れるなど、方法に関しての更なる工夫があるとよい。

観点イ (52) 「a」評価は妥当である

- ・指導経験が豊かな「若手教員育成推進員」が、若手が指導で危惧している点などを適切に指導しており、効果的である。対象教員が、研修会等に参加しやすくなるような県の働きかけがあるとなおよい。

観点ウ (51・52) 「a」評価は妥当である

- ・2年目、3年目の教員が課題意識をもって研修に臨んでいるなど、研修体系として機能している。
- ・ファイブ・アクション以外では、「教職たまごプロジェクト」も、「教師力トップ」アクティブプランの各事業のにつながる取組として継続してほしい。

○ちばっ子「学力向上」プラン全体の評価（学力向上推進会議コメント）

全体的な評価は、概ね妥当であるといえる。

◇ちばっ子「学力向上」プラン全体に対する学力向上推進会議委員の意見

- ・「新 ファイブ・アクション」となり、前プランからの継続事業には、相応の成果と意義を見いだすことができる。特に、「お兄さん、お姉さんと学ぼう」事業や「科学の甲子園ジュニア」事業などは、児童生徒の学力向上だけでなく、地域との連携、特に小中学校と高等学校とのつながりに貢献しているといえる。
- ・多くの事業が充実した、意義のある取組であるといえる。今後は、子どもたちが地域や社会に出たときのために必要となる能力としての学力をどう育てていくかという視点が大切であり、社会から求められる「思考・判断・表現力」を育成するための方策を重点的に考えていくことが求められる。
- ・県の学力向上施策の家庭への浸透は、必ずしも十分であるとはいえない。様々な事例集などを通じて、より一層の広報活動を推進してほしい。また、県教育委員会ホームページのコンテンツは充実していると思われるので、その優れたコンテンツを一般に広く知らせ、教員だけでなく、保護者や子どもたちが活用できるものとすることによって、学力向上に結びつけることを考えるとよいだろう。
- ・学力の向上や事業評価などは、短期的な指標では適切に計れない場合が多くある。継続的な施策については、5年間の推移や5年前の状況との比較などを見ている資料が多くあり、このような視点は大変よいといえる。ただし、長く続いている事業については整理の必要があるかもしれない。例えば、「授業レシピ」が次期学習指導要領を見越した新しい内容になっているかどうかなど、事業によっては現在の教育課題と関連付けて検証した方がよいと考えられるものがある。